

新型コロナウイルス：バンコク・サティヴェート病院スクムビットに日本人の方からよく寄せられている質問

【COVID-19 検査・感染濃厚・社内の感染対策】<第 6 版>【2020 年 3 月 23 日現在】

「みなみ先生の新型コロナよろず相談」に、1 週間以内に寄せられた質問・回答を抜粋して掲載しています

【検査・診断書】

1. PCR 検査はどの程度、必要なのでしょうか？
2. PCR 検査を受けたいです。手順を教えてください。

【感染が濃厚～確定】

3. 濃厚接触者になってしまった可能性があります。検査してもらえますか？
4. 感染が確定した後に転院するというタイの国立病院とはどんな病院ですか？

【社内の対策】

5. 基礎疾患を持っている従業員を感染から守る方法を教えてください。
6. 従業員が濃厚接触者の可能性があったので 14 日間自宅待機を行いました。特に症状は出ず、PCR 結果も陰性でした。職場復帰にあたり何か注意すべき点はありますか？
7. 社員や家族を日本に帰した方がいいのでしょうか？

【検査・診断書】

1. PCR 検査はどの程度、必要なのでしょうか？

新型コロナウイルス感染症は、感染していても、ウイルスが鼻やのどにあまり出てきていないことによって、検体のとり方の影響が大きく、検査結果が陰性になってしまうことが多いと言われています。逆に、本当は感染していない人に陽性反応が出ることもあります。症状がある人で何度も検査するうちに数回目で陽性となったという報告もまれではありません。そういった理由で、PCR 検査は本当に病気になった人の診断と治療経過の把握のために優先的に用いられるべきです。また、感染した人がどの程度陽性になるのか、濃厚接触した人がどの程度感染するのか、といった医学的調査のためにも用いられます。それ以外の個人的な検査では、PCR 検査が陰性ということをもって感染していないという証明にはなりませんし、何ら症状がないのに検査をする必要性は全くと言ってよいほどありません。

2. PCR 検査を受けたいです。手順を教えてください。

上に記載した通り、コロナウイルスに感染していないという証明は医学的には不可能です。一方で、社会的にどうしても必要な状況があるということもよく理解できます。サティヴェート病院では、学校・企業をふくめ、やむを得ない状況から診断書を要求されている方に対して、検査を実施するように態勢を整えました。

1. 要予約です。日本人相談窓口にお電話ください。

電話：020-222-122（毎日・7-20 時）

電話にて、検査を必要としている理由や詳細を伺います。

2. ご来院時は入り口に掲示してあるポスターをご参照の上、下記の行き先にお越しください。

a. 『**感染しやすい状況にあった方※**』 = 呼吸器症状特設クリニック（ARI）にて検査を実施しますので、院内には入らず、クリニックへ直接お越しください。（ポスターの前に地図掲示しています）

b. 『**感染しやすい状況にはなかったが、診断書が必要な方**』 = 日本人相談窓口にお越しください。検査を実施する場所をご案内します。

3. 費用・所要時間

3月23日現在、費用は8,000 バーツ、検査結果までは約3日かかります。

（22日午後から、より早く検査結果が出る検査機関に検体の送付先を変更しましたが、費用および検査結果までの所要時間はタイ国内の感染拡大の状況により流動的です。今後、変更される可能性があります。）

4. 保険

症状がない場合、検査や諸費用に保険は使えません。

5. 結果通知

検査結果が病院に届き次第、ご本人へご連絡いたします。

5. 診断書

診断書が必要な方は、検査の結果が出次第、「COVID-19 検査結果が陰性だった」という書類を発行します。ご都合の良い時に病院へ原本を取りにお越しください。お急ぎの場合は別途ご相談ください。

※3月23日現在： a. 感染が確定した方に濃厚接触した、b. 流行国への渡航歴あり、c. 確定患者が報告されている場所へ行った、d. 観光客と接する職業についている、のいずれかに当てはまる方

【感染が濃厚～確定】

3. 濃厚接触者になってしまった可能性があります。検査してもらえますか？

1. ハイリスク濃厚接触 = 閉鎖的な空間、2 m以内で長時間、感染が確定した方と一緒に過ごした方

⇒ 政府のガイドラインでは、患者の発症日から起算して5日目以降にかならずウイルス検査を受けることになっています。自宅待機が義務付けられますので、職場、学校、公共の場所には出ないようにし、検査に関して政

府担当官から具体的な指示がない場合は当院で検査対応いたします。はじめて濃厚接触した日から 5-7 日目を目安に、「あらかじめ電話でご予約」の上、「他の部署には寄らず」、「呼吸器症状特設クリニック」にお越しください。問診の上、検査を行います。1 回目が陰性でも繰り返し検査を行う場合があります。

2. ローリスク濃厚接触 = 上記ハイリスクに当てはまらない方

⇒政府のガイドラインでは、「最後に患者に接した日から数えて 14 日間は健康チェックや公共の場に出かけないなどの配慮が必要だが、普段通り入社・登校してよい」とされていますが、現実には会社、学校から自宅待機を強制されるのが普通になっていますので、その指示に従って 14 日間の自宅待機を守ってください。検査についてはご要望にお応えし、実施できる態勢を整えましたので【検査・診断書】の項をご覧ください。また、家族内、社内で複数の感染者が出た場合は、個人的にローリスクであってもハイリスクに準じた検査実施にて対応いたします。

上記ハイリスク、ローリスクともに、その後発熱された方は担当官への報告が義務付けられています。もし、病院受診の際は、通常の手順ではなく直接 ER を受診することになっていますので、電話連絡の上ご来院ください。

4. 感染が確定した後にタイの国立病院に転院すると聞きました。どんな病院ですか？日本語は通じるのでしょうか。

この 2 週間で感染者数が急増したことで、保健省が運営する病院の病床（陰圧隔離室）が枯渇し、現在は当院を含む一般病院での陰圧隔離室も利用しての管理に変更されています。

今後さらに患者数が増えた場合に備えて、BDMS グループでは稼働していない病床、病棟を COVID-19 用に稼働させる準備をしております。したがって、まったく言葉が通じないところに連れていかれるという事態は、少なくとも当院では起きていませんし、そうならないように準備中です。

元々の転院先は、感染症研究所の Bamrasnaradura 病院、Phetcharat 病院、Rajavithi 病院、Siriraj 病院、Nopparatrajathanee 病院であたりしたわけですが、現在これらの施設は経過観察だけの受け入れを止めて、重症者だけに限る方向になっているようです。

【社内の感染対策】

5. 基礎疾患を持っている従業員を感染から守る方法を教えてください。

職場内の徹底した感染対策として実行していただきたいのは、

1) 一般的な健康管理：全従業員の体温、体調チェック、かぜ症状のある方をすぐに休ませる、渡航歴のある方の出入り禁止、

2) 飛沫感染対策：会話、会議などにおいて職員同士の距離を最低 2 m あける、食事を別々に摂る、食器の共用禁止、食事時以外はマスク着用、

3) 接触感染対策：アルコールによる手の消毒、環境表面、特に複数の人が手を触れる場所の定期的消毒、消毒が無理な機器類の場合それに手を触れる前後にアルコール消毒などが考えられます。環境表面の消毒は次亜塩素酸 0.05%、100 倍希釈のハイターで結構です。

これらの中には効果が不明なものも含まれていますが、高齢、基礎疾患をお持ちの方に対しては以上病院の院内感染対策と同じ対応をされるのがよいかと思えます。

6. 感染確定した方と接触した従業員が 14 日間自宅待機を行いました。1 週間目実施の PCR 結果は陰性で、その後特に症状も出ませんでした。職場復帰にあたり何か注意すべき点がありますか？

結論から申し上げますと、通常勤務に戻っていただいて結構です。注意点として特別なものはありません。手洗いの励行、手指の消毒、マスク着用、お互いの距離を開けることをこれまで通り、職員全体で実行いただければ十分です。

しばらくは大変な状況が続きますが、お疲れが出ませんように。

7. 社員や家族を日本に帰した方がいいでしょうか？

日本では、特設テントなどで外来対応を行って病院はあるようですが、基礎疾患をお持ちの方やお子さんに対する診療に注力するため、COVID-19 感染が疑われる方の入院は、指定病院に限られ、また、小児の場合は重症化率が低いこともあって極力検査施行や入院隔離を避けているようです。一方、開業医さんには感染リスクのある方の診療をあまり歓迎されない状況があるようで、総合的にみると、タイのほうがまだ普通の病気を診療しつつ、COVID-19 にも対応するという余力や余裕があると思われますので、医療の心配は必要ないと考えてください。

ただし、生活の不便さや閉塞感などのストレスは、同じように規制されたとしてもタイのほうが強く感じるのではないかと思います。一旦帰ると入国が極めて困難な状況ですが、社員の方々、お子さんの状況次第ではお帰りになるほうが良い方もいらっしゃると思います。今後も両国の状況に注視が必要です。